

## “粉砕” 誌の概要

“粉砕”誌は、その第1号が1957年(昭和32年)11月に、(株)細川鉄工所(現ホソカワミクロン(株))の創業者である故細川永一会長の同年の紫綬褒章受章を記念に出版されたものです。第2号より、翌年に創設されました細川粉体工学研究所(現ホソカワ粉体技術研究所)から発行されることになり、その後原則的に年1回発行されています。

その英語名 The Micromeritics (粉体工学) が示すように、この粉体技術専門誌は、ものを細かくして粉体を作るという、粉体技術の最も基本的な単位操作である“粉砕”から始まり、粒子や粉や粒体に関連した技術や工学(Powder/Particle/Nanoparticle Science & Technology)の新しい動向や基礎、ならびに応用についての最新の情報を提供しようとするものです。

粉砕誌は、粉体技術談話会の運営委員で構成されるアドバイザーボードの助言を得ながら編集が行われています。

## 粉砕誌投稿要領

### 1. 原稿の種類

本誌の原稿は以下の4種類に分類されます。

#### 1.1 論文

粉体工学、微粒子工学に関連する完結した研究で、他紙に未発表のオリジナルなもの。和文・英文タイトルと和文・英文要旨をつけて下さい。また図表の説明は和英並記して下さい。

#### 1.2 総説、解説

粉体工学、微粒子工学に関連ある分野の解説的記事。著者の意見や見解を盛り込んで入門的に分かり易く説明したものが望まれます。

#### 1.3 テクニカル・レポート

粉体工学、微粒子工学に関連する処理装置・評価装置、あるいは粉体材料やこれらを用いた製品の開発、設計、運転、評価、応用等に関する技術的研究成果を纏めた内容のもの。

#### 1.4 その他

上記以外の原稿。

### 2. 原稿の編集

- 1) 論文につきましては、原則としてアドバイザーボードのメンバーによって査読を行います。
- 2) 原則として年1回発行します。
- 3) 抜刷をご希望の場合は編集事務局へご連絡下さい。実費にてお送り致します。
- 4) 掲載後の原稿は原則として返却しません。ただし

ご要望の際は返却致します。

- 5) 掲載しました原稿に対して、論文には原則として抜刷50部を謹呈しますが、稿料はお支払いしません。ただし、編集委員会より社外に依頼した依頼原稿については稿料をお支払いします。

### 編集委員：

(株)ホソカワ粉体技術研究所/HPTRI)

白谷晴男、横山豊和、[編集事務局] 伊賀雅美

(ホソカワミクロン(株)/HMC)

安岡公道、横山 新、伊藤典郎、小西孝信

### アドバイザーボード：

江見 準(金沢大学名誉教授)、奥山喜久夫(広島大学教授)、鹿毛浩之(九州工業大学教授)、向阪保雄(大阪府立大学名誉教授)、高橋 実(名古屋工業大学教授)、竹内洋文(岐阜薬科大学教授)、辻 裕(大阪大学教授)、内藤牧男(大阪大学教授)、野城 清(大阪大学教授)、東谷 公(京都大学教授)、日高重助(同志社大学教授)、福森義信(神戸学院大学教授)、増田弘昭(京都大学教授)

### ◎連絡先

〒573-1132 枚方市招提田近1-9

(株)ホソカワ粉体技術研究所内

“粉砕”誌 編集事務局 宛

(TEL: 072-855-2307)

(FAX: 072-855-2561)

### 原稿募集

“粉砕”誌の原稿を募集致します。粉体工学に関する論文、総説、テクニカルノートなど特徴ある記事をふるってご投稿されますようお願い致します。

次号発行予定 2007年10月

原稿締切 2007年6月末

### 表紙の写真

マクロ孔とメソ孔を有するキャパシタ炭素の電子顕微鏡写真。

オパール構造の配置をとるポリスチレンの隙間をシリカが埋め尽くすような構造体を作ったあと、このコンポジット体を不活性雰囲気下で熱処理することにより炭化し、さらにシリカをHFにより除去することによって作製されている。

この材料は、 $1000\text{m}^2/\text{g}$ 以上の大きな比表面積を持っておりキャパシタ電極として優れた特性を示す炭素材料となっている。

詳しくは、特集1の中の「ナノサイズ粒子を用いた電気化学的機能を有する多孔体の作製と応用」の図8(23頁)をご覧ください。